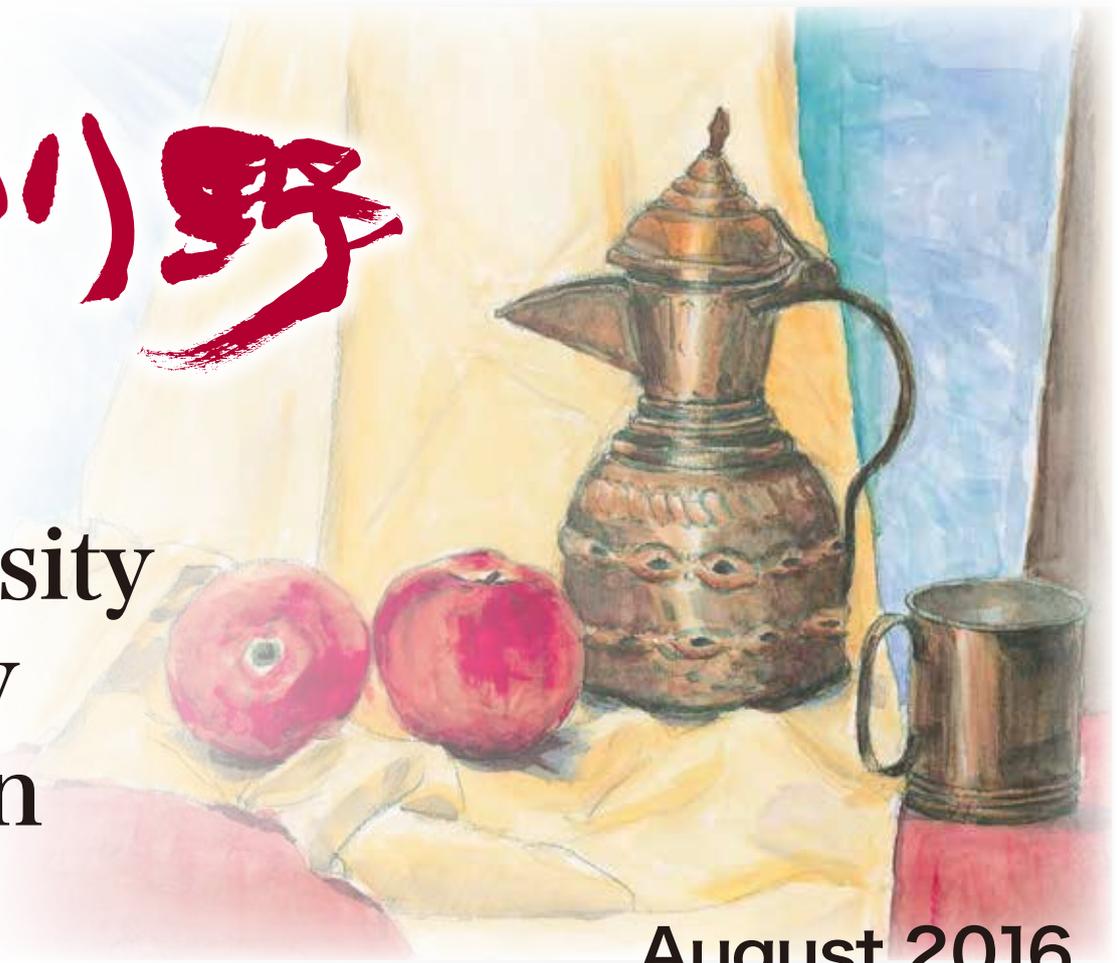


ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.40

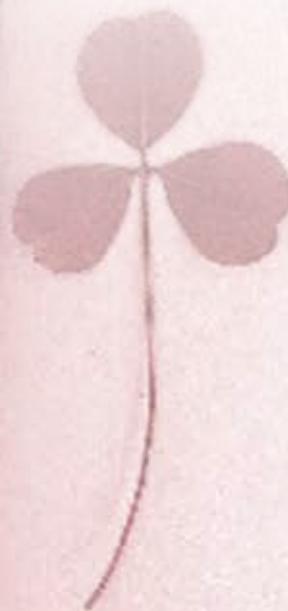
August 2016



目次

CONTENTS

データキュレーターとオープンサイエンス 館長……………	1
アクティブ・ラーニングとラーニング・コモンズ —社会人基礎力の育成のために— 副館長……………	2
ラーニング・コモンズのコンセプトと空間……………	3
本館1階にラーニング・コモンズを整備しました……………	4
図書館サポーター（さらりーず）による学生協働活動 ……	6
Library Lovers' キャンペーンに参加しました ……	6
平成27年度 図書館月間を開催 ……	7
オープンキャンパスでのイベント・展示・図書館ツアー……	7
イベント・展示に本館1階エントランスを活用しています…	8
新しい図書館利用案内が完成……………	8
現場実習の受入……………	8
各館で利用者アンケートを実施……………	9
電子ジャーナル及び文献データベースの検討について……	9
館内研修……………	9
図書館統計……………	10
受入資料紹介……………	14
人事異動……………	14
図書館日誌(行事・会議・研修等)……………	15
貴重書紹介 伊藤若冲作『鯉魚図』（市場直次郎コレクション）	





データキュレーターと オープンサイエンス

館長 米山博志

4月以来、図書館に関係したいろいろな資料や文章を読む機会が多くなり、データキュレーターという言葉を知ったのは、10年以上前にベストセラーとなった「ダ・ヴィンチ・コード」を読んだときだ。この小説の冒頭は、ルーヴル美術館のダ・ヴィンチの絵の前でキュレーターが死体で発見されるという設定である。キュレーターとは、辞書には学芸員とあり、博物館などの施設において専門知識をもって資料の分類、管理などを行うとある。その後、この言葉に出くわすことが多くなり、そして、データキュレーターである。ここでは、オープンサイエンスというものと関わって使われているものである。

このオープンサイエンスについて、2016年6月16日から2日間、仙台で開かれた国立大学図書館協会総会で議論が行われた。今年は、「国立大学図書館協会ビジョン2020」を採択し、その理念を1. 知の共有、2. 知の創出、3. 新しい人材、としてまとめ、オープンサイエンスなどの動きに対応することが決まった。この3つの概念は目新しいものではなく、大学の図書館としては、古くから掲げられてきた、そしてワールドワイドな概念であろう。それでは、なぜ改めてこの3つの概念をビジョンの中心に据えることになったかということ、それはその質が大きく変わりつつあるからである。その最も大きな要因は、大量の情報が、瞬時に、しかも双方向的にやりとりされるコミュニケーション様式の変化であり、そのことが、教育・研究のあり方もそして大学図書館のあり方も変えようとしているようだ。

オープンサイエンスが現実的に動き出したのが、2013年、ロンドンでのG8科学大臣会合の共同声明だそうで、その後急速に広がり、日本では内閣府の検討結果が「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～」(2015年3月、国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会)にまとめられている。それによると、オープンサイエンスは、公的研究資金を用いた研究結果について、広く容易なアクセスを可能にし、効果的に研究を推進することを目的とする。これはオープンアクセスとオープンデータからなり、前者はインターネット上で、査読済み論文の自由な閲覧、利用が可能になることであり、後者は研究によって生まれたデータを他者が自由に使えるようにするものである。

そもそも科学の歴史は、成果のオープン化という歴史を辿ってきている。「オープンサイエンスと科学データの可能性」(宮入暢子「情報管理」2014 Vol57, 80)によると、この歴史の中で培われてきた(1)先駆性の確保、(2)科学の集約化、(3)第三者による正当性の担保、(4)著者による説明責任の確立、にまとめられる特徴が、現在のプレプリントサーバー、オープンデータリポジトリなどへの動きにつながっているという。

オープンサイエンスにおいては、研究成果の検証のためだけではなく、新たな価値を生み出すためにデータそのものが重要な役割を果たすことになる。G8科学大臣会合で合意されたdiscoverable (探し易い), accessible (アクセスし易い), understandable (理解し易い), manageable (管理し易い)なオープンデータを保証するための、データの保存、管理の仕組みが構築されることが必須で、これらのデータに価値付けをし、そして利用し易くする役割が非常に重要になってくる。これが、データキュレーションであり、それを担う人材がデータキュレーターと呼ばれ、将来の科学のあり方に重要な役割をすることになる(村山泰啓、林和弘、オープンサイエンスをめぐる新しい潮流(その1) 科学技術動向、2014, 146, 12.同(その2) 科学技術動向、2014, 147, 16.同(その3) 科学技術動向、2015, 148, 4.)。

と、ここまで付け焼き刃で見聞きしたオープンサイエンスについて書いて来たが、正直な所、腑に落ちるまではもう少し時間がかかりそうだ。しかし、大学図書館はこの急速な動きに対して、将来新たな役割を担うべく変化を求められていることは確かなようで、前述の図書館協会総会で行われた、深貝保則氏(横浜国立大学)の大変興味深い講演によれば、オープン化という容易でない課題にたいして「離れ業」を果たしながら、大学図書館そのものが広い意味でのキュレーターとしての役割を果たして行かなくてはならないという。



アクティブ・ラーニング とラーニング・コモンズ —社会人基礎力の 育成のために—

副館長 宮本比呂志

私の大学生時代は30年以上前ですが、専門職教育を行う医学部で学びましたので、当時でも、「大学教育は社会に出て働くためのトレーニング」という認識でした。しかし、その当時、他学部に進学した友人たちは大学教育が社会に出て働くためのトレーニングという意識はほとんどなく、社会・企業もそれを望んでなかったように思います。トレーニングは入社してから社内で行うというのが企業のスタンスでした。終身雇用制のもと右肩上がりの経済状況で企業が人材育成に時間とコストをかけることができたからでしょう。「大学での学びは社会で役立つのか」が論じられ「大学での学びは社会でさほど役立たない」という意見が多数で、それが許容されていたと思います。しかし、近年、終身雇用制の崩壊や熾烈なグローバル競争、そして経済状況の悪化などにより企業に一人から人材を育てる余裕がなくなりました。企業は「基礎学力」「専門的知識」に加え、多様な人々と仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力(社会人基礎力)を持った即戦力の人材養成を大学に求めています(経済産業省ホームページ)。そのような人材を育てるための授業方法が能動的学修(アクティブ・ラーニング)です。

平成24年の中央教育審議会(中教審)の答申で、「教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要」という見解が示されました。いわゆる「学習から学修へ」という教育の質的転換答申です。それ以降、問題解決型学習(PBLやTBL)やディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなど、伝統的な授業(受け身の授業)とは異なる学生参加型の授業が増加しています。これらの授業は大学生の「主体的な学び」を育むための授業方法です。しかし、特に新しいものではなく、医学教育では20年以上の実績があります。社会に出て働くためのトレーニングとして大学教育をとらえるならば、医学教育で証明されているようにアクティブ・ラーニングは必要不可欠と思われます。中教審の質的転換答申は即戦力の人材を育成することを大学教育に求めた経済界からの要請でもあります。米澤誠先生(東北大学)も「アクティブ・ラーニングは新しい概念ではないが、重要なところは大学生の社会的能力を高める機能を果たすことだ」と述べておられます(IAALニュースレター No.13, 2013)。経済産業省が2006年から提唱している「社会人基礎力」は「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」です(経済産業省ホームページ)。大学が「社会人基礎力」を意識的に育成していくためには従来の受動的な学習では不十分で、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、協調力などを育てるアクティブ・ラーニングが必須でしょう。このアクティブ・ラーニングを促進するための学習環境が「ラーニング・コモンズ」です。佐賀大学附属図書館でもハード面での整備が完了しました。ラーニング・コモンズではレポートやイベント開催などのグループ活動の成果物やプレゼンテーションなどの学生さんが学修から生み出すさまざまなアウトプットへの支援が大切です。「与える教育観」「放っておく教育観」でなく、「支える教育観」(北海道大学 守屋淳先生)に基づいて、図書館職員だけでなく大学内の各部署が適切に連携し協力できるかが私たち教職員の今後の大きな課題です。

これまで述べてきたように、21世紀になり職業人教育を重視した大学教育が求められるようになりました。学問に「社会化」の要素が意識され、大学教育改革と呼ばれています。中教審は、平成28年5月30日、ITなど成長分野で即戦力となる人材育成を目指し、実践的な職業教育を行う「専門職大学」創設を答申しました。中教審会長を教育者や研究者でなくて財界人が務めている現状では当然の答申かもしれません。しかしながら、大学はそもそも学問をする場です。学問の研究と教育の基本は「自由」「知の継承」そして「知の創造」です。「興味の赴くままに本を選んで独り静かに読書して知を拡げる」という学習環境を図書館は提供することを忘れてはいけません。「悠々知酔」は医学分館運営委員の高野吾朗先生が命名された佐賀大学オリジナル清酒の名前ですが、悠々知酔できる静かな学習環境も図書館は維持したいと思います。皆様のご利用をお待ちしています。



ラーニング・コモنزの コンセプトと空間

工学系研究科都市工学専攻

田口陽子

昨年度末に附属図書館がリニューアルオープンし、1階すべてが会話可能なラーニング・コモنزとして利用できるようになりました。ラーニング・コモنزとは、「本を静かに読む」という個人の活動に特化した従来の閲覧スペースとは全く異なるもので、学生相互の主體的な学習のために設けられた多目的学習空間のことです。建築空間研究室の当研究室は、ラーニング・コモنزのデザイン検討においてコンセプトづくりと空間提案に関わりました。ラーニング・コモنزが設置された背景には、情報技術の発達によるインターネットの普及とともに図書館の役割が変容していることがあります。ここでは、情報収集やコミュニケーションの方法の変化について私見を述べたあと、新しく整備されたラーニング・コモنزのコンセプトと空間についてご紹介したいと思います。

私が大学生だった1990年代はインターネットが普及し始めたばかりで、インターネットで入手できる情報も限られていたので、レポート課題などの際に有益な情報を得るためには、まず図書館や書店に行って本を探すところからはじめるしかありませんでした。否が応でも書物に多く触れる機会があったわけですが、いくら読んで自力では理解が及ばない本もありました。自分でどう判断したらよいかわからない情報が多々あり、それらを理解するための枠組みを得る必要がありました。そこで役立ったのが、友人との勉強会、先輩の卒業制作の手伝い、国内外の建築旅行、他大学の学生との交流、設計事務所でのアルバイトなどの課外活動です。課外でのいろんな人々との出会いを通じて、ものごとを見るさまざまな視点を学習しました。当時の大学にラーニング・コモنزはありませんでしたが、学内外のいろんな場所、むしろ都市のなかに、そのような学習の場を見出していたのだと思います。

2000年代に入るとインターネットを通じたコミュニケーションのあり方が変わり、送り手と受け手が流動化して誰もが自由に情報を発信できるようになりました。インターネットを通じて意見を交換する機会が増えたことで、わざわざまちに出て人と会わなくても情報を理解するための枠組みや視点が得やすくなり、教育や学習の場においてもインターネットの活用が一般的になりました。その一方で、TwitterやFacebookなどのSNSでは自分と同じような価値観の人々からしか情報が入って来ないという側面もあり、異質な価値観に接触する機会が減っているという報告もあります。これは、コミュニケーション方法がフレキシブルになったことで、逆説的に、情報にバイアスがかかりやすくなったことを意味しています。

ラーニング・コモنزのデザイン検討に際しては、コミュニケーションの活性化ばかりに目を向けるのではなく、さまざまな視点が同時に存在しうる場所にしようと考えました。つまり、インターネットが普及する以前のまちに出て情報を探索していたかの状況を図書館につくろうと考えました。具体的な計画としては、複数人のコミュニケーションに特化したフレキシブルに使えるテーブル・椅子だけでなく、かたちや色がさまざまなテーブル・椅子、そして見通しと回遊動線に配慮して曲線形の低い書架をレイアウトし、多様な学習の場を並存させる計画としました。コンセプトは、「知に出会う場」「ともに学び、創造する場」「多様な居場所」です。可動式のテーブル・椅子とホワイトボードを70席準備したグループ学習スペースでは、書物やインターネットなどからのさまざまな情報を用いてグループワークやディスカッションを行うことができます。カウンターの前には曲線形の書架があり、そこで新しく出会った書物を手に取り、円形のソファに腰掛けて拾い読みすることができます。サークル型のPCテーブルでは、PCを用いた個人作業とグループワークの両方が可能です。エントランスホールにある青いオブジェのようなテーブル・椅子では、リラックスした姿勢でディスカッションやグループワークを行えます。1階すべてが会話可能ですので、その時々気分や目的に合わせて好きな場所を選んで、いろんなことに使ってもらいたいと考えています。多様な学習のあいだに《見る》《見られる》の関係ができ、お互い刺激を受けて創造性が高められるような場ができていくとよいと思います。

空間や家具などの物理的要素が一通り揃ったので、これからは、学習サポートの人的サービスの導入や、書物やインターネットの情報を活用した学習法の試行など、利用者と運営者によってラーニング・コモنزの空間が上書きされていくことでしょう。そして、ラーニング・コモنزが佐賀大学の多様性が顕在化するリアルな場所になることを願っています。

本館1階にラーニング・コモンズを整備しました

本館では、大学教育のアクティブ・ラーニング化を支援するためにラーニング・コモンズを整備し、3月25日(金)にリニューアルオープンしました。

これまで、館内の一角に可動式の机・椅子を配置したラーニング・コモンズの機能を持つエリアを備えていましたが、今回の整備により1階フロアのほぼ全面を学生のアクティブ・ラーニングが可能な空間とすることができました。

ラーニング・コモンズのコンセプトは、「知に会い」「ともに学び創造する」「さまざまな居場所」としました。従来の可動式の机・椅子等を配置したエリアを単純に拡大するのではなく、学生の多様な学習スタイルに対応可能な学習環境や様々な形での学生の居場所を提供できる空間作りを目指しました。



具体的には、波型の書架にシラバス関連図書や新着図書を配架、その書架の間にグループワークができるテーブルを点在させました。ホワイトボードやノートPCと接続可能な大型ディスプレイなど、グループディスカッションで役立つツールも利用できます。書架は色をホワイトに替え、カーペットを張り替え、全体的に明るい雰囲気になりました。エントランス近くには、円柱を生かしたソファや個性的な形をした椅子を揃え、気軽に立ち寄れる場を意識した作りとなっています。1階のマップ、各スペースの写真は次ページに示しています。

1階がアクティブに利用できるエリアである一方、2階・3階はサイレントエリアとし、静かに個人学習を行う空間としています。

今回の整備に当たっては、図書館が中心となり、滝澤登全学教育機構副機構長(当時)をチーフとして、建築学を専門とする工学系研究科の田口陽子准教授、アクティブ・ラーニング手法による授業経験等の豊かな教員3名、教員からの推薦や公募により参画した学生10名、図書館職員3名で構成されたワーキンググループが8ヶ月に渡って検討を行いました。

改修工事のため、2月8日(月)～3月10日(木)までは休館、3月11日(金)以降は利用ができる場所を制限し一部開館(大学入試日は除く)、3月25日(金)に全面開館いたしました。

リニューアルオープン後、初めて図書館を訪れた利用者からは、「明るくなった」、「おしゃれ

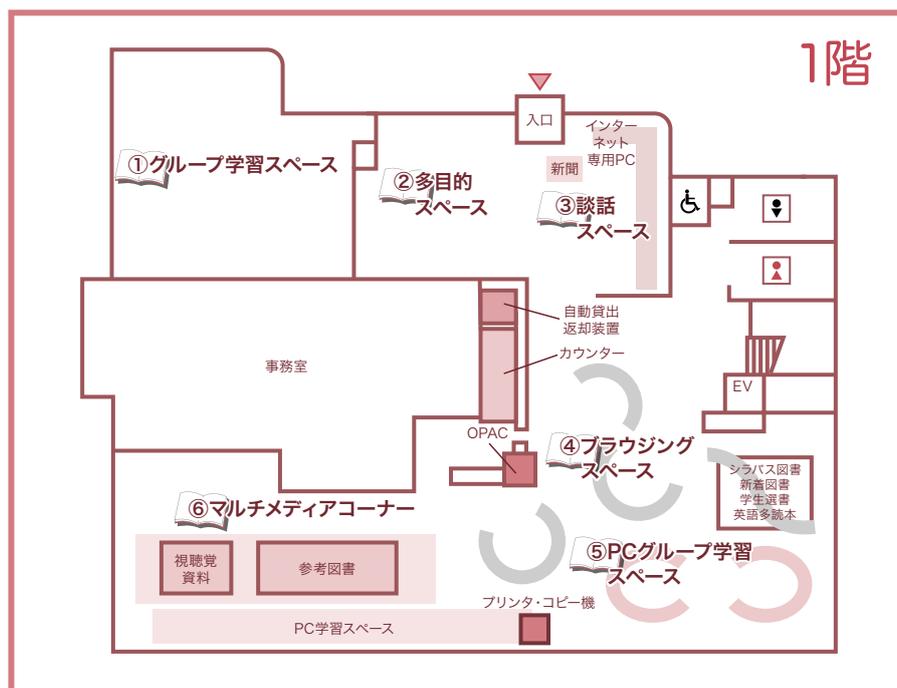


書架イメージ
(模型製作:都市工学専攻田口研究室)

になった」、「ゼミの学生を連れてきてここで学習させたい」等、好印象の声が図書館カウンター職員に寄せられています。

今後は、教員との連携により人的な学習支援体制を整備し、ラーニング・コモنزの利活用を図っていきたいと考えています。

1階マップ



①グループ学習スペース



②多目的スペース



③談話スペース



④ブラウジングスペース



⑤PCグループ学習スペース



⑥マルチメディアコーナー

図書館サポーター（さらりーず）による学生協働活動

昨年度まで活動していた「学生選書委員会」が今年度から「図書館サポーター（愛称：さらりーず）」と新たな名称となり活動を開始しました。総勢22名の学生メンバーが、様々な学生協働活動に取り組みました。

まず、本館では、九州地区図書館合同イベントLibraryLovers'キャンペーンの佐賀大学オリジナル企画として、「悪女イラストコンテスト」を実施しました(次の項目で詳しく紹介)。また、「素敵な大学生が本を紹介するイメージ」で、おすすめ本を掲載した写真集を現在作成中です。写真撮影は、図書館サポーター学生自身で佐賀大学写真部の学生に協力を依頼し、モデルになってくれる学生も集めました。他にも、本の展示コーナーも手がけ、「秋の夜長に読みたい本」「英語多読本を読んでスキルアップ」「映像化された本たち」等のテーマ展示が好評でした。

医学分館では、8月のオープンキャンパスに合わせ、普段は利用者でもある図書館サポーター学生が来場した高校生に館内を案内して巡る図書館ツアーの実施、また実際に大学の講義や授業等で使用している医学書の展示を行い、来館した高校生の興味をひいたイベントとなりました。

また、本館・医学分館ともに選書ツアー（於：ジュンク堂書店福岡店）やオンライン選書を実施し、約300冊の図書が学生選書として蔵書に加えられました。

定期的に行ったミーティングはランチの時間に行うことでメンバーの出席率が上がるようにし、企画打ち合わせや選書した本の審議、ミニビブリオバトル等を開催しました。

各サポーターに企画から携わってもらったことで、自主的かつ真剣に活動に取り組む姿勢が伺え、企画の実現に繋げることができました。今後もこの学生協働活動が、学生自身が社会人になっても活かせる経験になるよう、また図書館側でも利用促進・サービス満足度向上に役立てていけるよう継続していきたいと思えます。

さらりーずブログ <http://sagaul.blog133.fc2.com/>



写真集用の撮影風景



ランチミーティング(本館)



ランチミーティング(医学分館)

Library Lovers' キャンペーンに参加しました

平成27年度も九州地区図書館合同イベントであるLibrary Lovers' キャンペーンが行われ、佐賀大学も参加しました。合同企画の「ブックレシピ本を、料理しろ。」では、テーマに沿った本3冊におすすめコメントをつけたものを「ブックレシピ」として展示をしました。また、佐賀大学のオリジナル企画として「谷崎潤一郎没後50周年記念 悪女イラストコンテスト」を実施しました。『痴人の愛』に登場するナオミをイメージしたイラストを募集し人気投票するという内容で、さらりーず(図書館サポーター)が手掛けた企画でした。渾身のイラストが多数集まり、掲示しているパネルの前では立ち止まる学生も多く、サポーターにも利用者にも楽しめる企画となりました。



平成27年度 図書館月間を開催

附属図書館では、地域に根ざした生涯学習の拠点としてサービスを提供するという目的のもと、毎年11月を図書館月間としてイベントを行っています。

平成27年度は佐賀市の「三重津海軍所跡」が世界遺産に登録されたことに因み、「幕末・明治期における佐賀の電信文化」をテーマにした講演会や、三重津海軍所絵図、反射炉絵図など幕末佐賀藩の科学技術に関する資料展示を行いました。



講演する多久島氏

講演会

会 場：図書館本館4階会議室

日 時：11月10日(火) 14:30～16:00

「日本電信の祖 石丸安世」

講演者：幕末佐賀研究会会員 多久島 澄子 氏

11月17日(火) 14:30～16:00

「佐賀藩と電信機」

講演者：佐賀大学名誉教授 長野 暉 氏



講演する長野氏

資料展示

会 場：図書館本館1階エントランスホール

日 時：11月6日(金)～20日(金)

展示内容：三重津海軍所絵図、築地反射炉絵図、
多布施反射炉絵図、精煉方絵図のパネル等



資料展示風景

オープンキャンパスでのイベント・展示・図書館ツアー

8月7日(金)、佐賀大学はオープンキャンパスを開催し、高校生を中心に多数の来場者がキャンパスを訪れました。図書館にも多くの高校生や親子連れが訪れ、館内を見学していました。

本館では、大学新入生向けの本の展示や写真撮影スポットなどを設置しました。また、佐賀大学写真部や美術部に協力依頼をして作品展示を行い、大変賑わいました。医学分館では、図書館サポーター(さりーず)が主体となって「医学生が実際に使う本」や「受験生に薦める本」などを展示しました。また、サポーターの学生自ら、利用者である学生目線で館内を案内する図書館ツアーも行いました。来場者は興味深そうに展示図書を手にとったり、サポーター学生の話に耳を傾けたりしていました。このほか恒例の栗、うちわ作りも行い、皆さん楽しんでいらっしゃる様子でした。



本の展示と写真撮影スポット
(本館)



展示図書を解説する図書館サポーター
(医学分館)



展示に使うポップや正面玄関に置く看板も
学生が制作(医学分館)

イベント・展示に本館1階エントランスを活用しています

本館1階エントランスのスペースを希望者に無料で貸出をし、展示などに活用していただいています。平成27年度は、毎年恒例の佐賀大学写真部と美術部の作品展の他、佐賀大学が行っている研究に関するパネル展、DV防止に関する展示、男女共同参画に関する川柳・ポスター展など、多岐に渡る内容になりました。

図書館がキャンパスの中心で分かりやすい場所であること、またエントランスでの展示が人の目に触れやすいということがあり少しずつ利用申込が増えています。



開催日程	イベント・展示内容
5月7日(木)～5月14日(木)	写真部作品展
6月15日(月)～6月19日(金)	美術部作品展
7月2日(木)～7月21日(火)	佐賀大学研究センター&プロジェクト研究所パネル展
8月7日(金)オープンキャンパス	写真部、美術部作品展
10月20日(火)～11月25日(水)	DV防止啓発パネル展示
10月30日(金)～11月8日(日)	写真部作品展
12月14日(月)～12月18日(金)	美術部作品展
2月1日(月)～2月5日(金)	男女共同参画 川柳・ポスターコンテスト 入賞・入選作品展示

新しい図書館利用案内が完成

従来の図書館利用のしおりを刷新し、図書館利用案内を作成しました。A5サイズで16ページ構成です。図書館の開館時間やサービスをはじめ、本館・医学分館の施設紹介などを掲載しています。

図書館ホームページで電子ブックを見ることができます。

http://www.lib.saga-u.ac.jp/service/lib_annai/index.html



本館(本館) 〒840-0202
TEL 0952-34-9004
学芸部 TEL 0952-34-9005
学芸部 TEL 0952-34-2714
図書館ホームページ <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>

現場実習の受入

佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校の現場実習を下記のとおり受け入れました。

6月8日(月)～19日(金) 中学3年生 1名

<実習内容>

館内清掃、書架整理、カウンター業務、図書の装備(タトルテープ入れ、背ラベル貼り等)

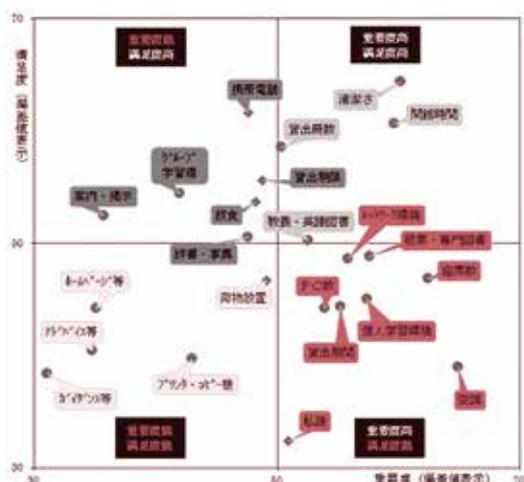


各館で利用者アンケートを実施

第Ⅱ期中期目標・中期計画期間における利用者サービスの総括として学生アンケートを実施しました。アンケートは各設問に満足度と重要度を選択回答してもらう方法で実施し、職員グループで学習会を開催しながらCS（顧客満足度）グラフを作成して、図書館の「強み」「弱み」を可視化して今後の改善点などを明らかにしました。

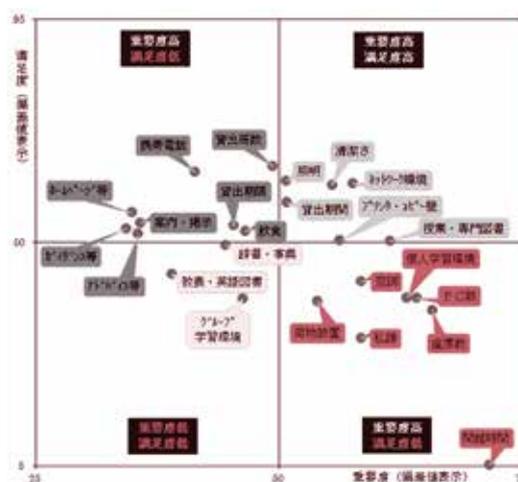
今後もこの手法によるアンケートを定期的の実施し、利用者の図書館評価を「見える化」することで優先度の高い順にサービス等の改善等を行い、利用者満足度の高い図書館にしていきたいと考えています。

本館CSグラフ



●は「利用環境・設備、図書館サービス」の項目、◆は「利用者マナー」の項目

医学分館CSグラフ



電子ジャーナル及び文献データベースの検討について

海外の商業出版社等が刊行する電子ジャーナル及び全世界の全学術分野にわたる研究文献等を収録した引用文献データベースが重要な学術情報インフラとなっています。一方、利用経費の継続的な値上がり及び平成27年10月からの消費税課税により、契約状況はより厳しさを増しています。これらの対策として、附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース専門委員会において、平成28年度から平成29年度までの2年間の電子ジャーナル及び文献データベース契約等の在り方について検討し、『電子ジャーナルおよび文献データベース契約の在り方についての検討報告書』をまとめました。

館内研修

職員の資質向上のため、いくつかテーマを設け館内研修に取り組んでいます。

まず、本学を当番校として実施した福岡・佐賀大学図書館協議会南部地区研究会において、「著作権について」と題した講演会を開催しました。図書館業務と関係の深いこともあり、改めて著作権について再認識させられる機会となりました。

また、昨今、ネットワークの発展とともに情報の流失等が社会問題になっており、図書館でも個人情報情報を扱うことから、関連する勉強会を行いました。

その他のテーマとして、統計分析、RSS等を使った情報収集についての研修会を行いました。今後も様々なトピックを取り上げ、研鑽を積んでいきたいと考えています。

図書館統計

(平成28 (2016)年3月31日現在)

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

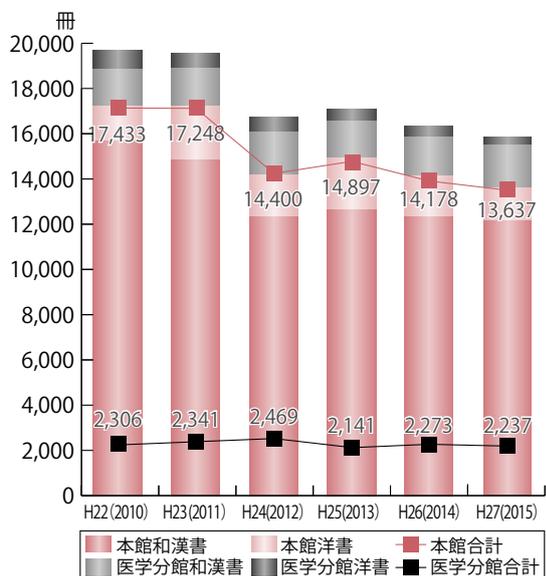
	和漢書	洋書	合計
本館	421,356	177,487	598,843
医学分館	71,195	46,683	117,878
合計	492,551	224,170	716,721

雑誌所蔵種類数

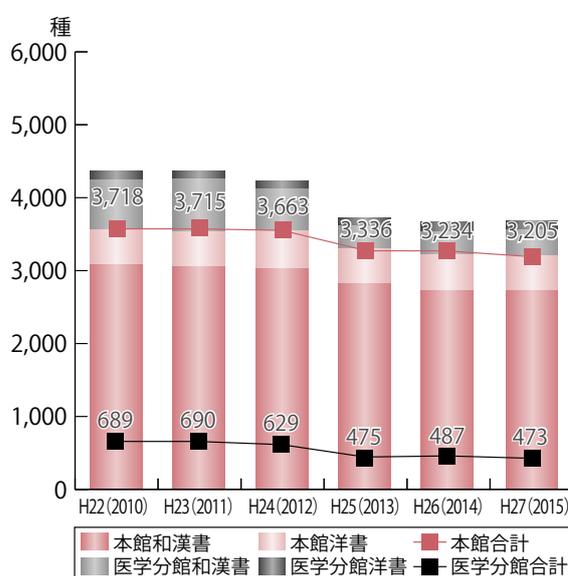
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,539	2,977	9,516
医学分館	1,236	1,119	2,355
合計	7,775	4,096	11,871

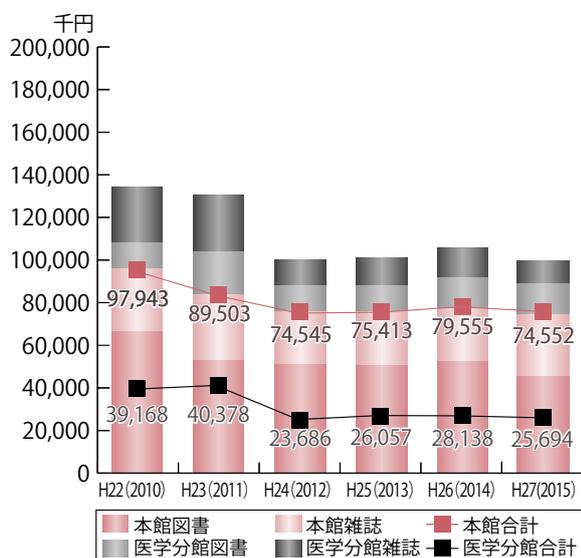
図書受入冊数



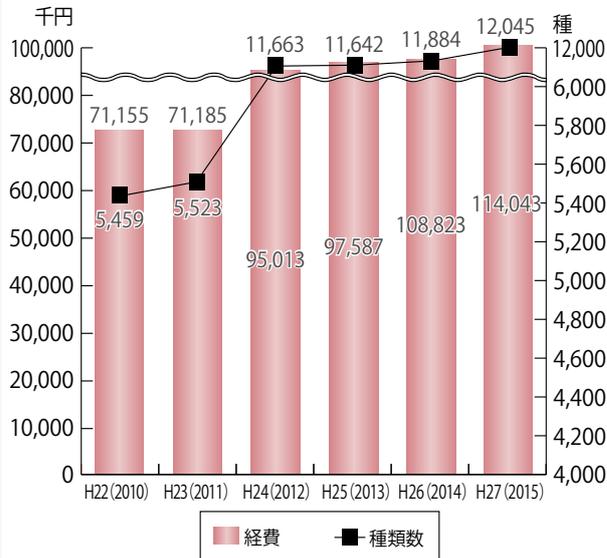
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



(注)平成24年度からアグリゲータ(Cinii、メディカルオンライン、Academic Search Premier、JSTOR)の電子ジャーナル及び外国雑誌契約で購読形態が電子ジャーナル分を加算している。

サービス統計

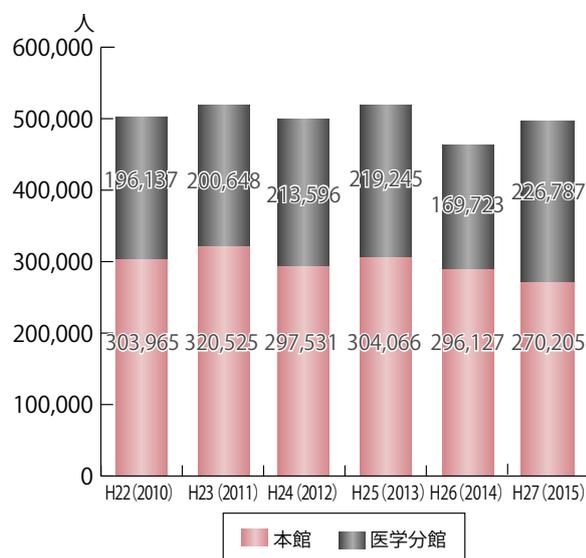
開館日数

(日) 利用対象者数 (平成28(2016)年5月1日現在) (人)

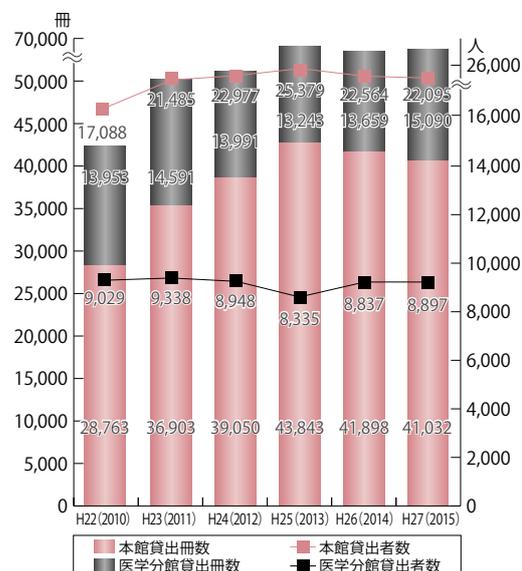
	本館	医学分館
平日	215	242
土・日・祝日	104	107
合計	319	349

	本館	医学分館	合計
学生	5,896	1,106	7,002
教職員	1,230	1,474	2,704
合計	7,126	2,580	9,706

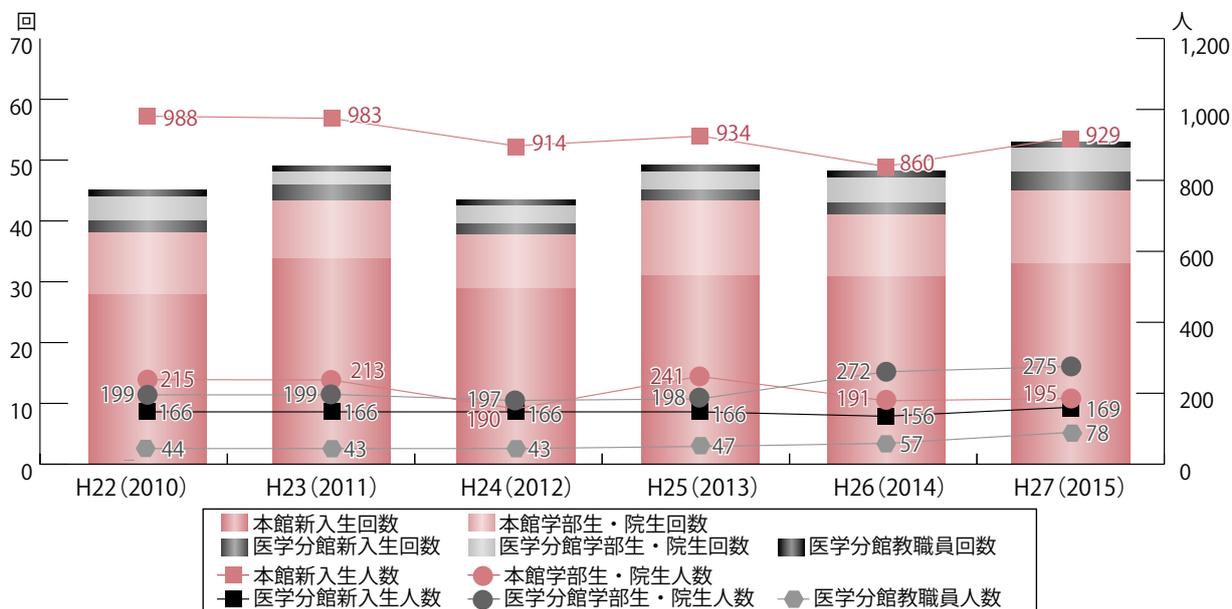
入館者数



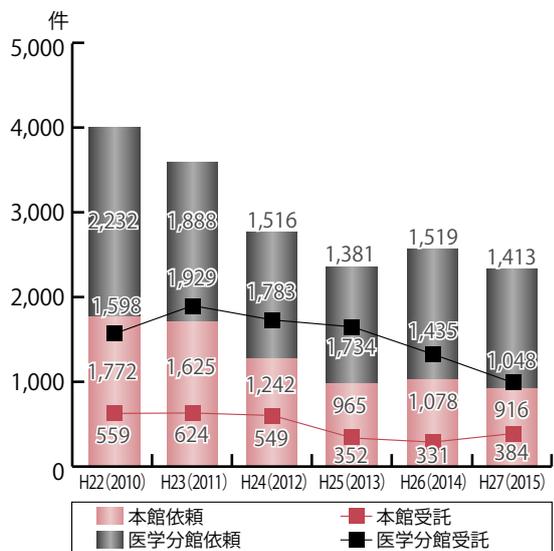
貸出冊数と貸出者数



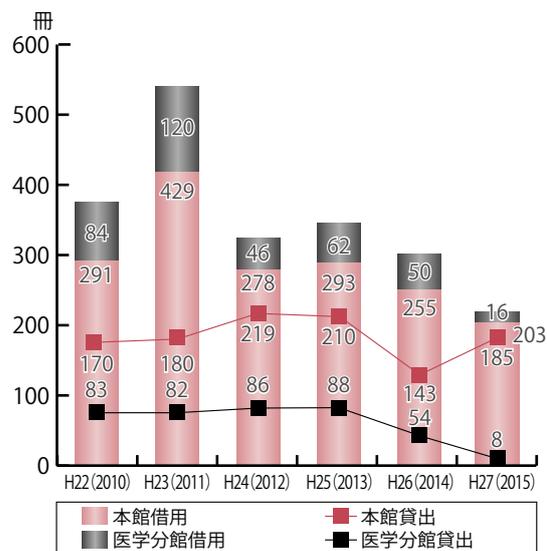
オリエンテーション(図書館案内)



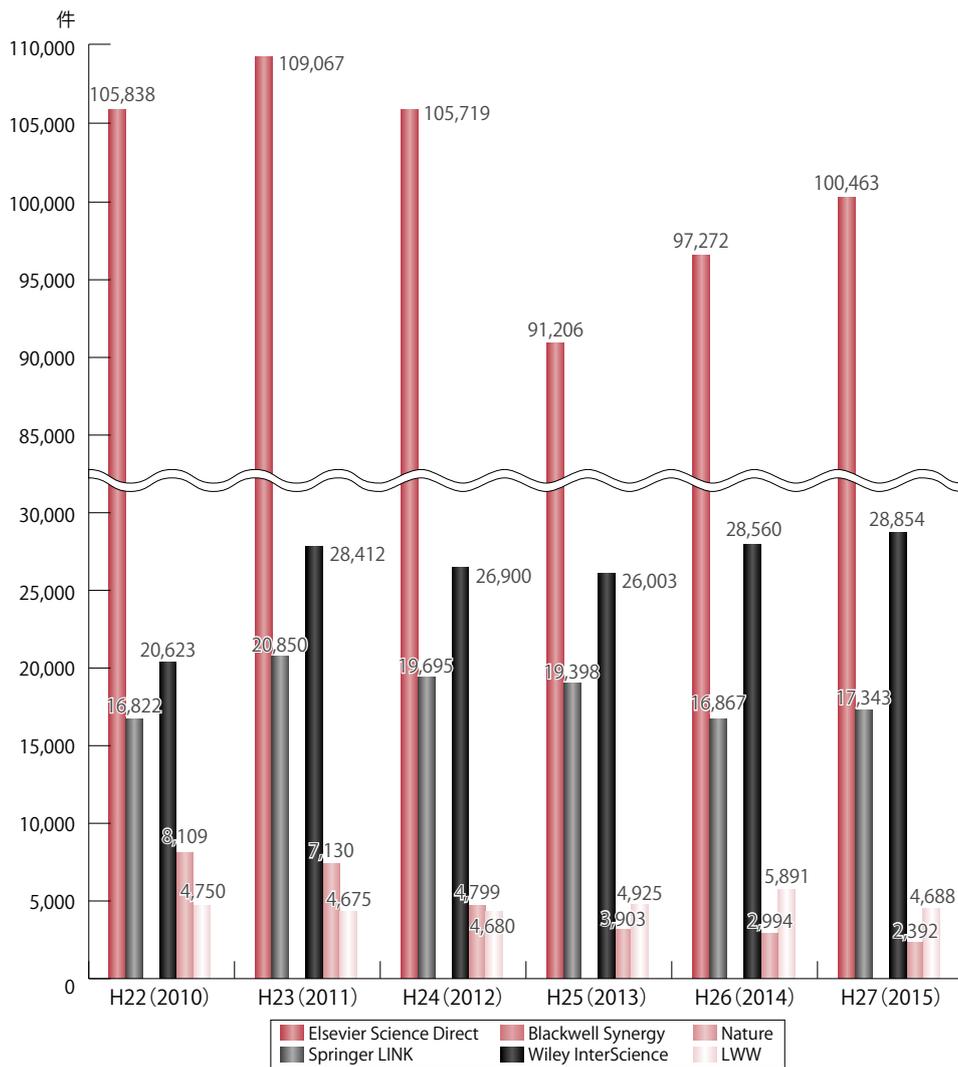
文献複写件数



相互貸借冊数



電子ジャーナル利用件数



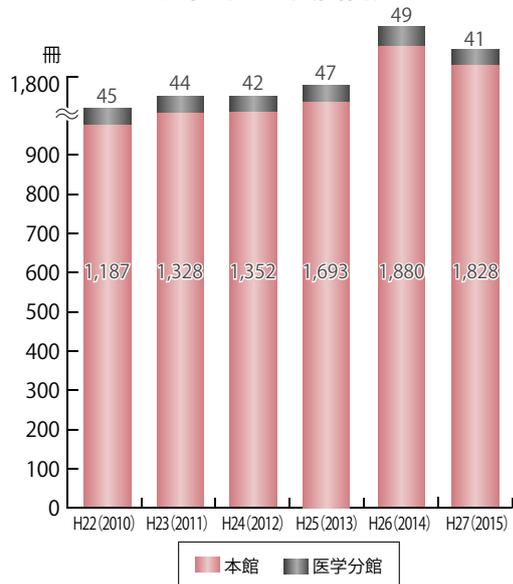
・ H21 (2009) Blackwell は Wiley に統合

文献データベース利用件数

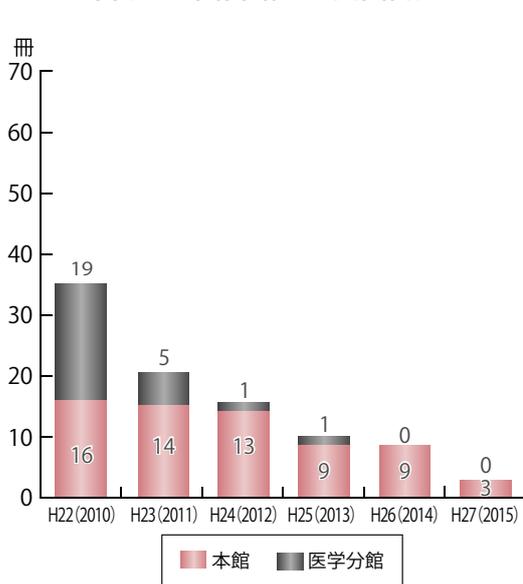
年度	CiNii	間 蔵	ヨミダス歴史館	ジャパンレヅジ	ブックプラス	日経テレコン	日経BP記事索引	医中誌Web
H22 (2010)	21,901 (86,606)	1,240	(5,627)	398	609 (814)	(267,335)	(2,274)	17,172 (258,413)
H23 (2011)	21,149 (85,559)	1,126	(9,924)	300	520 (646)	(690,657)	(2,861)	17,509 (59,105)
H24 (2012)	15,689 (66,710)	1,023	(7,675)	155	146 (302)	(688,304)	(4,329)	17,308 (51,252)
H25 (2013)	14,620 (74,540)	743	(1,230)	155	84 (61)	(248,024)	(10,245)	16,634 (55,738)
H26 (2014)	12,898 (83,492)	1,040	(1,127)	824	51 (25)	(312,650)	(7,507)	18,738 (65,725)
H27 (2015)	15,193 (84,676)	781	(892)	1,030	42 (16)	(285,606)	(6,748)	18,959 (66,889)
年度	SciFinder	Academic Search Premier	Ovid	UpTo Date	Stat!Ref	Clinical Evidence	Cinahl	Scopus
H22 (2010)	3,049	3,726	9,586 (20,880)	2,889	171	39 (62)	432 (1,647)	非契約
H23 (2011)	5,055	2,984	9,302 (22,413)	2,550	41	37 (89)	277 (1,306)	非契約
H24 (2012)	4,370	3,055	5,964 (11,207)	2,295	12	38 (92)	73 (264)	11,031 (35,832)
H25 (2013)	4,724	2,291	9,437 (21,541)	2,866	17	36 (88)	130 (260)	11,164 (34,083)
H26 (2014)	5,329	2,811	8,602 (29,528)	3,596	7	40 (114)	143 (362)	12,903 (33,671)
H27 (2015)	5,921	2,939	10,621 (33,178)	2,247	非契約	44 (80)	469 (516)	13,305 (33,772)

* 括弧内は検索回数または本文利用回数

一般市民への貸出冊数



県内公共図書館への貸出冊数



受入資料紹介

学生用図書

平成27年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入了ました。

教員推薦図書 1,549冊 学生希望図書 443冊 図書館推薦図書 2,526冊 継続購入図書 522冊

寄贈図書

- ・ **名誉教授 長野暉**
Sites of Japan's Meiji industrial revolution: Kyushu-Yamaguchi and related areas / World Heritage Nomination Japan (外7点)
- ・ **文化教育学部教授 相澤照明**
分析美学基本論文集 / 西村清和著
- ・ **非常勤講師 服部八重**
赤き手袋：句集 / 実松展子著 (外14点)
- ・ **平成27年度医学部看護学科卒業生**
看護師国家試験国試過去問“よくでる！”セレクト(第104回；2016年版) / 杉本由香編 (外52点)
- ・ **原田信之**
ドイツ教授学へのメタ分析研究の受容：ジョン・ハッティ「可視化された学習」のインパクト / 原田信之、ヒルベルト・マイヤー編著；エヴァルト・テルハルト [ほか] 著；宇都宮明子 [ほか] 訳
- ・ **杉谷俊二**
ぼくらの地球規模イノベーション戦略：IT分野・日本人特許資産規模No.1社長のこれまでと次の挑戦 / 菅谷俊二著
- ・ **昭和学園理事長 楠峰光**
異形の人たち：歴史の中の障害福祉 / 楠峰光著
- ・ **川良邦弘**
頭の回転数を上げる45の方法 / 久保憂希也, 芝本秀徳共著 (外13冊)
- ・ **北野淳一**
剣難女難；神変麝香猫 / 吉川英治著 (外47冊)
- ・ **音西由美子**
総合書道大辞典 / 飯島春敬編 (外43冊)
- ・ **古川治**
新人学校事務職員のワークとライフ：一年間の成長と効果的な研修 / 藤原文雄編著 (外2冊)
(敬称略・順不同)

人 事 異 動

(平成27年4月2日～平成28年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏 名	現 職	異 動 内 容
退 職	28.1.31	松 永 麻里子	図書・雑誌主	
勤務命令	28.2.1	野 口 順 子	図書・雑誌主	医学分館主
"	28.2.1	宮 地 芳 子	医学分館主	利用サービス主
採 用	28.2.1	友 田 ゆうこ	利用サービス主	
退 職	28.3.31	三 浦 聡 子	情報図書館課係長(利用サービス主)	
勤務命令	28.4.1	森 暁 子	情報図書館課係長(利用サービス主)	情報図書館課係長(電子情報主)
配 置 換	28.4.1	三 瀬 花 菜	情報図書館課事務員(利用サービス主)	入試課事務員

図書館日誌(行事・会議・研修等)

平成27年

- 4月 1日 図書館情報誌「さらり」7号発行
- 4月10日 平成27年度第1回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～16日 「平成27年度以降における教職関連図書・雑誌の整備(案)について」他
- 4月16日 第45回九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館:宮崎大学 於:ニューウェルシティ宮崎)
- 4月17日 第66回九州地区大学図書館協議会総会
(当番館:宮崎大学 於:ニューウェルシティ宮崎)
- 5月20日 管理監督者・労務担当者講習会(於:佐賀県労働基準協会講習場)
- 5月29日 平成27年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館:西九州大学 於:グランドはがくれ)
- 6月 9日 平成27年度第1回附属図書館運営委員会
「平成26年度決算及び平成27年度予算(案)について」他
- 6月 9日 平成27年度第2回附属図書館選書専門委員会
「平成27年度附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 6月 8日 現場実習 特別支援学校中学部 1名
～19日
- 6月12日 平成27年度第4回附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」他
- 6月18日 第62回国立大学図書館協会総会及びマネジメント・セミナー
～19日 (当番館:熊本大学 於:ホテルニューオータニ熊本)
- 6月26日 佐賀大学評価者研修(於:佐賀大学)
- 6月30日 平成27年度第5回附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」他
- 7月 5日 平成27年度大学図書館職員長期研修(於:筑波大学)
～17日
- 7月10日 平成27年度第3回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～17日 「平成27年度図書館サポーター(さらりず)の選考について」他
- 7月24日 丸善情報基盤ソリューションセミナー(於:福岡ビル)
- 7月25日 平成27年度九州地区国立大学附属図書館ソフトバレーボール大会(当番館:九州大学)
- 7月28日 平成27年度第6回附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約のあり方について」他
- 7月31日 学術情報セミナー2015 in 福岡(於:九州大学)

- 8月 3日 学術講演会「大学図書館の未来」(於:九州大学)
- 8月 4日 平成27年度第2回附属図書館運営委員会
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約及び
経費負担の在り方について」他
- 8月 5日 平成27年度「北部地区研究会目録講習会」(於:九州女子大学)
- 8月 6日 平成27年度第1回附属図書館医学分館運営委員会
「平成26年度決算及び平成27年度予算(案)について」他
- 8月 7日 図書館報「ひかり野」39号発行
- 8月19日 平成27年度佐賀県大学図書館協議会総会
(当番館:九州龍谷短期大学 於:九州龍谷短期大学)
- 8月20日 平成27年度佐賀大学幹部職員職員(課長級)研修(於:佐賀大学)
- 8月24日 第1回学生選書ツアー(於:福岡市)
- 9月 8日 平成27年度九州地区国立大学法人等係長研修(於:佐賀大学)
~11日
- 9月 9日 大学図書館コンソーシアム連合 平成27年度版元提案説明会(於:一橋大学)
~11日
- 9月10日 第6回中国・四国・九州地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー
~11日 (於:鹿児島大学)
- 9月15日 平成27年度第4回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
~18日 「本館学生用図書(学科推薦図書)の購入について」他
- 9月16日 平成27年度九州地区国立大学法人等テーマ別研修会(於:長崎大学)
- 9月24日 平成27年度第2回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
~10月2日 「書籍の除籍について」他
- 9月29日 附属図書館(本館)防災訓練実施
- 9月29日 附属図書館(医学分館)防災訓練実施
- 10月15日 平成27年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:佐賀女子短期大学 於:佐賀女子短期大学)
- 10月16日 第63回九州地区医学図書館協議会総会(当番館:久留米大学 於:ハイネスホテル久留米)
- 10月21日 平成27年度第1回鹿児島県大学図書館協議会講演会(於:鹿児島大学)
- 10月19日 平成27年度九州地区国立学校会計事務研修(於:熊本大学)
~23日
- 10月26日 平成27年度第3回附属図書館運営委員会(メール会議)
~30日 「図書の除籍及び他機関への譲渡について
- 11月 5日 平成27年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
~ 6日 (当番館:宮崎大学 於:宮崎大学)

- 11月 9日 平成27年度第5回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～13日 「本館学生用図書(教員推薦図書)の購入について」他
- 11月10日 図書館月間講演会(於:附属図書館4階会議室)講演会テーマ「日本電信の祖 石丸安世」
- 11月10日 第17回図書館総合展(於:パシフィコ横浜)
～11日
- 11月13日 平成27年度九州地区国立大学附属図書館長・事務(部・課)長会議事前打合せ(於:九州大学)
- 11月17日 図書館月間講演会(於:附属図書館4階会議室)「佐賀藩と電信機」
- 11月20日 平成27年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議(於:九州大学)
- 11月27日 第23回九州地区医学図書館員セミナー(於:琉球大学)
～28日
- 11月27日 平成27年度第3回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)
～12月4日 「教育研究用推薦図書の購入について」他
- 12月 1日 平成27年度第4回附属図書館運営委員会
佐賀大学附属図書館規則及び佐賀大学附属図書館長選考規則の一部改正について他
- 12月15日 九州地区国立大学図書館協会会員館職員研修WG(於:九州大学)
- 12月18日 平成27年度第1回附属図書館評価専門委員会(メール会議)
～25日 「平成26年度佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告について」他

平成28年

- 1月29日 平成27年度国立大学図書館協会シンポジウム(於:東京大学)
- 2月17日 平成27年度第6回附属図書館選書専門委員会(メール会議)
～23日 「日経テレコムの新契約変更について」他
- 3月 2日 平成27年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館:佐賀大学 於:佐賀大学)
- 3月 7日 佐賀大学附属図書館自己点検・評価に関わる外部評価(於:佐賀大学)
- 3月16日 平成27年度第2回附属図書館評価専門委員会(メール会議)
「附属図書館の自己点検・評価に関わる学外者検証について」他
- 3月18日 平成27年度第5回附属図書館運営委員会(メール会議)
～24日 「平成26年度附属図書館自己点検・評価について」他
- 3月25日 平成27年度第6回附属図書館運営委員会(メール会議)
～31日 「図書の除籍及び他機関への譲渡について」他

貴重書紹介

伊藤若冲作『鯉魚図』（市場直次郎コレクション）

解説

本作は佐賀大学附属図書館・市場直次郎コレクション所蔵、伊藤若冲(1716-1800)作「鯉魚図」である。水面を揺らし、天に舞い上がるかのような鯉。滲ませた墨と墨の境に白線が残る画仙紙の特性を利用した「筋目描」を巧みに用い、鱗を描き分ける。水の動きを略画的に表す余白の表現、生き物の無私の生命感を示すような漆黒の目の描写、躍動感ある構成等に独自の造形感覚が認められる。

京都の青物問屋に生まれた伊藤若冲は、40歳で家督を弟に譲り画業に専念。初期は狩野派、中国の宋元画や明清代の民画に学んだのち写生へと進み、写実を越え奇矯で幻想的な極彩色の花鳥画を確立し、評価を高めた。その一方、水墨略画で動植物や吉祥の画題を描いた作も数多い。本作で描かれるのは、立身出世の画題である鯉の滝登りではないだろうか。款記はなく、印章は白文長方印「藤女鈎印」、朱文円印「若冲居士」。類似作が、江戸絵画のコレクションで著名なアメリカのプライスコレクション他に数点確認される。



美術館での展示の様子

本作は、平成27年に佐賀大学美術館で開催した「市場直次郎コレクションより 花鳥風月に遊ぶ～近世の絵師と歌人～」にて初公開。出品作には、近世京都の文化人名録『平安人物志』に名が残る若冲をはじめ、文人画の与謝蕪村、池大雅・玉蘭、紀梅亭、円山四条派の長澤蘆雪、山口素絢、円山応震、松村景文や、狩野永岳、土佐光孚が含まれる。扇面を中心に全31点と、小規模ながらもコレクションの質の高さと、江戸絵画の多様性を示す展示となった。

市場直次郎氏(1904-96)は専門である民俗学研究の傍ら、20代から70年以上にわたり近世文学や扇面、掛軸など1900点を超える資料を収集。本作は、表装の配色も自身で手掛け、子息の端午の節句に合わせ床の間に飾った。芸術を解し、時節に合わせその美を愉しんでいたという。

(たましん地域文化財団学芸員 元佐賀大学美術館 藤森梨衣)

